

3. 放射線性出血性膀胱炎に対して 猪苓湯合四物湯が著効した1例

順天堂大学医学部附属順天堂医院 泌尿器科

○青木 裕章、呉 彰眞、大高 絢子、原岡 政貴
平野 央、飯村 研二、寺井 一隆、小林 博仁
水野 太起、荻島 達也、田中 道雄、和久本 芳彰
堀江 重郎

【緒言】骨盤内腫瘍に対する放射線療法は特に婦人科腫瘍や前立腺癌などで集学的もしくは根治的治療法として認識されている。しかしその一方で、それに伴う合併症は難治性の事が多い。今回我々は放射線性膀胱炎に伴う合併症を呈した症例に対して猪苓湯合四物湯を併用する事で著効した症例を経験したので報告する。

【症例】76歳女性。子宮頸癌で平成19年放射線療法施行。放射線性腸炎のため人工肛門造設、直腸腔瘻となった。放射線性膀胱炎による頻尿、膀胱痛および血尿のため平成22年9月当科受診。尿細胞診でClass V検出したため粘膜生検行ったところ放射線性膀胱上皮内癌を検出した。それに対しBCG注入療法行うも膀胱痛と血尿のため4回で終了した。

その後の排尿症状は難治性で種々の投薬に抵抗性であり、高圧酸素療法を計30回施行するもその効果も一時的であった。

これに対し平成24年8月より112ツムラ猪苓湯合四物湯エキス顆粒7.5g分3で開始。服用1ヶ月で肉眼的血尿が消失、2ヶ月で膀胱痛が軽減。膀胱鏡所見でも膀胱内の毛細血管の破綻が軽減し、膀胱容量も増大を認めた。また尿細胞診も陰性化を認めている。

【考察】放射線性膀胱炎は放射線照射による血管内皮細胞の障害に起因し20-80%に重傷の血尿が起こるとされている。猪苓湯合四物湯は猪苓湯に地黄、芍薬、川芎、当帰を加えた方剤で止血作用や抗炎症作用が強いとされる。抗菌剤や抗炎症剤との併用でより有効率が高いことが報告されており、既に種々の投薬が行われていることの多い放射線性膀胱炎では効果的であると考えられた。